

## 果樹試験場 概要

### 1 建物・施設・ほ場等

総面積	18.19 ha
建物敷地面積	2,956 m <sup>2</sup>
建物延面積	3,877 m <sup>2</sup>
本館延面積	2,430 m <sup>2</sup>
付属施設延面積	6,307 m <sup>2</sup>
ほ場面積	4.43 ha

### 2 平成22年度予算

総予算額	35,835 千円
内訳	
総務管理費	12,842 千円
試験研究費	22,993 千円
(うち備品購入費)	7,560 千円)

### 3 平成22年度参観者数

3,110 名

### 4 平成22年度試験研究概要

#### 1) 新品種育成試験

(栽培部 3,696千円 県単・国委託 S30～H23年)

[内容]

普通温州優良系統の探索、カンキツ新品種の育成、(独)果樹研究所育成系統の系統適応性および新品種に関する栽培技術の開発を行う。

[結果の概要]

①年内出荷用優良普通温州として選抜した‘16-3’は、‘向山温州’に比べて豊産性で浮皮になりやすく、じょうのう膜が薄く食味良好な新系統であることを再確認し、品種登録出願を行った。

②他の有望系統およびH22年新規探索の9系統について、育成地での果実品質を調査した。場内でも、H16～19年に探索した有望19系統の高接ぎ樹について果実品質を調査した。H16、H17探索の10系統については、現地高接ぎ検定園8ヶ所で果実品質を調査した。

③‘ニュー上市’珠心胚実生30個体の果実品質を調査し、一部有望な個体があった。

④‘ゆら早生’珠心胚実生個体から選抜した9月出荷可能な早熟系統‘YN26’は、県果樹育苗組合で苗木増殖中である。主要JA管内に高接ぎ見本樹を設置し、適応性を調査した。

⑤‘YN26’以外の‘ゆら早生’珠心胚実生34個体、‘田口早生’珠心胚実生24個体、‘向山温州’珠心胚実生72個体について、場内高接ぎ樹の果実品質を調査した。

⑥交雑による新品種育成では、年内出荷可能な‘ゆら早生×紅まどか’8個体から優良2個体を選抜し4

個体を継続調査とした。また、‘清見×かんきつ中間母本農5号’14個体から、無核で年内出荷可能な有望個体として2個体を選抜した。

⑦年内～年明け出荷可能な新品種を目指し、‘中野3号ポンカン’を花粉親に‘清見’、‘西之香’、‘あまか’を種子親にした交雑個体を作成し、結実の見られたものについて特性調査を行った。

⑧4～5月以降に出荷可能な新品種を目指して、‘清見’、‘西之香’、‘あまか’を種子親に、‘早生ハッサク’、‘メイポメロ’、‘イエローポメロ’、‘カラ’、‘オレンジ日向’、‘中野ポンカン’を花粉親にした交雑個体を作成し、結実の見られたものについて特性調査を行った。

⑨機能性の高い県オリジナル品種育成を目指し、ジャバラを種子親にした交雑個体(花粉親は‘イーチャンレモン’、‘ダイダイ’、‘舟床’、‘ユーレカレモン’、‘花ユズ’、‘タチバナ’)を作成した。

⑩上記交雑個体の高接ぎ樹を育成し、結実の見られた果実(2009年収穫)について、フラボノイド類の定量分析を行った。一部で機能性成分が付加された個体が検出された。

⑪カンキツ育種の効率化を目指して、DNAマーカー利用による育種技術の習得に職員を派遣した(農研機構果樹研究所依頼研究員受入れ制度)。これにより、SSRマーカーによる品種判別と親子鑑定、多胚性品種の幼苗から交雑胚を早期に判別する技術、果汁から品種判別を行うDNA解析技術を習得した。

⑫カンキツ第9回(2系統)、第10回(9系統)系統適応性検定試験を行った。ピワ第3回系統適応性検定試験(1系統)も行った。

⑬ ‘ゆら早生’の強勢台木4品種について、過去5年間の継続調査の結果から‘シングルシトルメロ’、‘C32シトレンジ’、‘C35シトレンジ’が樹冠拡大や収量増加に有効であり、着色がやや遅れるが糖酸含量には影響がないことを確認した。

⑭ ‘はるみ’の台木試験では‘シングルシトルメロ’が、‘不知火’の台木試験では‘シングルシトルメロ’、‘トロイヤースイトレンジ’、‘C35シトレンジ’が樹冠拡大、収量増加で優れており、果実品質への影響は少なかった。

⑮ ‘ゆら早生’に対するターム水溶剤の生理落果期散布（満開26日後、45日後）の摘果効果は高かった。8月上旬散布で減酸促進効果を認めたが、糖度が低下する傾向が見られた。

## 2) 異常気象に対応したウンシュウミカン新灌水指標の作成

(栽培部・大阪府立大学・有田川土地改良区  
3,400千円 県単 H20~22年)

[内容]

樹の生体情報を基準にして土壌タイプや気象変化に柔軟に対応できる新しい灌水指標を開発する。

①フィールドサーバー（3園地）と個別気象観測機器（2園地）による気象データ、および、TDR式土壌水分計による土壌の深さ別水ポテンシャルと消費水量データを引き続き蓄積した。

②有田地域のミカン園では0~30cm土の水分動態が重要であり、TDRを地面に垂直に挿入する測定法が簡便で実用上問題ないことを確認した。

③スプリンクラー灌水の場合、マルチ区消費水量（7月10日~11月10日）は裸地区に比べて少なく、マルチ被覆による蒸発散抑制効果が見られた。しかし、樹冠下の日陰では差がなかった。

④スプリンクラー灌水では表層への水供給量が多く、その後の消費水量も多かったが、蒸発による消費が大きいと思われた。ドリップ灌水では土壌内部へも水が補給され、体積含水率の変動は小さく、消費水量が少なくそのほとんどは樹の吸水によるものと考えられた。マルチ被覆でも裸地でも同様の結果だった。

⑤マルチ・ドリップ灌水で、少量多頻度灌水と多量小頻度灌水を比較した結果、後者で体積含水率が高く推移した。前者は後者よりも蒸発量が多かつ

た可能性があるが、後者は含水率の変動が大きかったことから、根の吸水能力が前者よりも低下していた可能性もある。

⑥第1層（0~10cm深）、および0~30cm層では、体積含水率が高いほど日消費量は多く、（日消費水量/可能蒸発散量）と体積含水率に高い相関が見られた。

⑦上記の（日消費水量/可能蒸発散量）は、夏期（7/20~9/10）より秋期（9/11~11/10）で高かった。

⑧0~30cm層の土壌が十分湿った状態での土壌水分推移は、園地の第1層の土壌物理性によって異なった。

⑨ 調査園5カ所について、土壌が十分湿っている状態からの水消費パターン、および（日消費水量/可能蒸発散量）と体積含水率の直線回帰式を作成した。これにより、水消費パターンまたは天気予報から可能蒸発散量を算出すれば、十分な降雨後、あるいは計測した土壌体積含水率を起点として、日消費水量や体積含水率の推移を予測することができ、次の灌水情報を提供できるようになった。

## 3) ミカンの浮皮発生予測と対策技術の開発

(栽培部・(独)農研機構果樹研究所・静岡県農林技術研究所果樹研究センター 2,600千円 国委託 H22~26年)

[内容]

温暖化に伴い多発している早生、中生ミカンの浮皮について、発生要因の解明と発生危険度予測技術の開発、ならびに実用的な発生防止技術を開発する。

[結果の概要]

①浮皮発生度は、早期マルチ区<対照区<後期マルチ区で、浮皮は果実肥大期前半（5~7月）の乾燥によって抑制され、後半（8~10月）の乾燥によって助長される可能性が示唆された。

②浮皮発生の少なかった早期マルチ区では、葉や果皮の窒素およびカリウム含量が乾燥期に低くなり、逆に果皮中のカルシウム含量が高い傾向であった。

③ジベレリン（GA）・ジャスモン酸（PDJ）混用散布の浮皮発生防止効果を検討した。PDJを25ppmに固定し、GA濃度1ppmまたは3.3ppm、散布時期が早期（‘宮川早生’7/28、‘向山温州’8/13）または

後期（同上8/13、9/1）に散布した結果、GA3.3ppmの早期または後期散布で有意な防止効果が認められた。

④今年度の結果では、両品種ともに、GA・PDJ混用散布による着色遅延や糖度・酸含量への悪影響は認められなかった。

#### 4) ミカンの着花予測と裏年予防技術の開発

（栽培部 大麦ゲノムテクノロジー（株）・岡山県農林水産総合センター生物科学研究所 委託 200千円）

[内容]

葉中リノレン酸量による早い時期の着花予測技術を開発するとともに、グルタチオンによる着花制御技術を開発する。

[結果の概要]

①着果量の少なかった樹では、当年9～11月の葉中脂肪酸総量に占めるリノレン酸比率が低く、下向き～横向き結果母枝の翌春着花量は多かった。逆に、着果量の多かった樹では、当年の葉中リノレン酸比率が高く翌春の着花量は少なかった。

②酸化型グルタチオン（GSSG）0.5mMまたは1.0mMを、夏期（6月下旬～9月上旬）または秋期（9月下旬～11月中旬）に葉面散布した結果、両濃度ともに秋期散布で果実肥大が促進される傾向を示した。

③GSSGの夏期または秋期散布により果汁糖度は低下する傾向が見られた。果皮色や浮皮発生への影響は認められなかった。

④GSSG散布による葉中リノレン酸含量比率、および翌春着花量への影響を見るため、近赤外スペクトルを測定後、葉身部を凍結保存した。

#### 5) みかんの有機栽培技術のシステム化開発

（環境部 718千円 国交 H20～22年）

[内容]

有機栽培に関する技術の探索と新技術の開発・実証を行い、有機栽培システムを開発する。

[結果]

①透水性防草シートの敷設は、除草作業と3割の施肥量を削減でき、果実品質は夏秋期に開放する方が周年敷設より良好であった。

②有機栽培園における黒点病に対しては、6～9月の月1回の枯れ枝除去と6月と9月の銅水和剤散布に

より防除効果が認められた。また、チャノキイロアザミウマは白色マルチで防除できた。

③収穫前日の重曹散布で果実腐敗病が軽減できた。

#### 6) 果樹の病虫害防除技術の開発

（環境部 6,980千円 国交・国委託 S57～H23年）

[内容]

果樹病虫害の発生予察による的確な防除を行うため主要病虫害の発生生態の解明と防除対策を検討する。

[結果の概要]

①かいよう病に対する微生物農薬（エルビニア剤、タラロマイセス剤、バチルス剤）の混用による防除効果向上はみられなかった。

②銅水和剤、抗生物質剤、微生物農薬のかいよう病に対する残効性を比較したところ、いずれの剤も散布後20日程度は残効が認められた。

③樹上のかいよう病菌を特異的に検出して菌密度を調査するための手法を開発した。

④マシン油乳剤（60倍）と銅水和剤（80倍）の混用散布を発芽前に散布し樹体への影響を調査したところ、銅水和剤単用と比較して違いはみられなかった。

⑤モザイク病弱毒系統候補樹の調査を行った。

⑥波長355nm（紫外光）および525nm（緑色）のLED光源はチャノキイロアザミウマの誘引に有効で、525nmの夜間点灯は最低気温が20℃以上あれば誘引効果があった。

#### 7) カンキツの果皮障害軽減技術開発

（環境部 762千円 県単 H21～23年）

[内容]

‘不知火’等の果皮障害発生要因を解明し、樹体の養水分管理や果実保護対策を組み合わせた軽減技術開発を行う。

[結果の概要]

①夏秋期の乾燥処理で‘不知火’の水腐れ症の発生を助長した（H21）。

②ジベレリン及びジャスモン酸＋ジベレリン散布で、‘不知火’果梗部の亀裂発生が軽減したが、緑斑症状が現れた（H21）。

## 8) 農作物鳥獣害防止技術実証

(環境部 737千円 県単 H21~23年)

[内容]

鳥獣害の着実な被害軽減を図るためには、栽培面積の大きい果樹を中心に最適な対策を指導するとともに、個々の集落がおかれた状況に応じた的確な指示を出す資料を作成する。

[結果]

- ①果樹園周囲法面を刈り払うことで、イノシシのエサ場としての利用を制限できることを明らかにした。
- ②竹林がイノシシのエサ源となっており、除草剤で枯殺することでエサ源を減らせることを明らかにした。
- ③ニホンザルの既存電気柵への侵入経路を明らか

にし、侵入防止柵を考案、一般公開している。

## 9) モーションセンサを用いた害獣追い払いシステム開発

(環境部 5,200千円 県単 H22~24年)

[内容]

イノシシを対象に接近を検出する「モーションセンサ」を用いて、光(LED)や音など各種刺激を組み合わせた追い払い装置を開発する。

[結果の概要]

光による追い払い効果を検証したところ、既存LED点滅灯は2日間しか効果が持続しなかったのに対し、モーションセンサを用いた試作機は11日間イノシシの食害を防ぐことができた。

## 5 一般業務概要

### 1) 平成22年度主要行事及び特記事項

#### (1) 研修受入

県農業大学校試験場研修として9月27日~10月1日に22名の学生を受け入れ、カンキツ栽培の研修を実施した。吉備中学校生徒2名が10月27~29日に職場体験を行った。

#### (2) 紀の国ふれあいバスを7回で254名を受け入れた。

(3) 平成22年度農業技術成果発表会が和歌山市の県自治会館で開催され、果樹、野菜・花き・作物分科会で関係する試験研究や技術の成果が発表された。会場からは果樹分科会において2課題の発表を行った。

(4) ミカンとふれあいデーを10月から3月まで毎月7日に開催し、ミカンなんでも栽培相談、鳥獣害対策機器の展示およびビデオ鑑賞、土壌分析、栽培園の見学、品種展示・試食を行った。

(5) FM88.9MHzマザーシップの取材を受け、1月から3月にかけて各水曜日、テーマ別に計9回の放送が行われた。

(6) 果樹試験場創立100周年記念行事「カンキツ産業の未来に向けて」について、1月20日にフォーラムを果樹試験場で、翌21日に記念講演会をきびドームで開催した。フォーラムでは温暖化に関する話題提供として4課題の発表と、「カンキツ研究、次の100年を考える」をテーマにパネルディスカッションを行った。記念講演会では仁坂吉伸県知事開会挨拶の後、富永茂人鹿児島大学農学部教授から「カンキツ産業、世界の動きと日本の未来」、長谷川美典(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所長から「カンキツ産業の未来を支える技術開発」と題しそれぞれ講演いただいた。

### 2) 平成22年度刊行物一覧

(1) 平成22年度果樹試験研究成績

(2) 果試ニュース No. 76、No. 77

(3) 和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場 創立100周年記念誌

## 3) 平成22年度主要な技術研修及び講演等実績

月	内 容	場 所	対 象
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近問題になっている病虫害防除について、ゆら早生ニューセラー、新中晩柑の特性について</li> <li>・本年産ミカンの樹体管理と品質向上対策について</li> <li>・炭酸カルシウム剤を加用した銅水和剤によるカンキツ黒点病の防除効果</li> <li>・ミカンバエについて</li> <li>・カイガラムシの発生の把握と適期防除について</li> <li>・鳥獣害について</li> </ul>	場 内  田辺市  紀の川市、 田辺市  紀の川市、 田辺市  日高川町  和歌山市	JAグリーン日高果樹部会  JA紀南カンキツ生産者  病虫害防除員  病虫害防除員  JA紀州中央柑橘部会  農業環境保全室担当者会議出席者
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異常気象に負けない今年のみかん作り</li> <li>・温州ミカンの今後の生産対策について</li> <li>・近年の病虫害の発生と防除対策、22年産ミカンの生理落果および高品質対策</li> <li>・防除、病虫害、新品種、流通について</li> </ul>	有田振興局  広川町  海南市  場 内	有田農業技術者会員  JAありだAQマル南選果場柑橘部会  JAながみねカンキツ生産者  JAありだAQ総合選果場柑橘部女性部会
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象変動に対応したみかん作り</li> <li>・温州みかんオリジナル品種のシリーズ出荷推進プロジェクトに係る育成品種の特性等について</li> <li>・東海市果樹振興会みかん部会研修会</li> <li>・温州みかんの水管理の基礎知識</li> <li>・和海地方新規就農者研修会</li> <li>・農作物鳥獣被害防止対策技術について</li> <li>・鳥獣被害対策について</li> <li>・果樹試験場の研究内容</li> </ul>	和歌山市  場 内  場 内  有田市  場 内  場 内  湯浅町  場 内	県肥料協会 有田地方農業士協議会研修会  愛知県東海市果樹振興会みかん部会  有田川土地改良区散水委員会 和海地方新規就農者 和歌山県農作物鳥獣害対策アドバイザー  有田地域鳥獣被害防止対策協議会 善進会会員
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みかん園における蒸発散量の実態とかん水指標について</li> </ul>	有田振興局	有田ネット21会員

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAグリーン日高果樹部会生産者大会</li> <li>・ミカン栽培について</li> <li>・マルチ被覆講習会</li> <li>・話題の新品種について</li> <li>・不知火・はるみの栽培について</li> <li>・カンキツの新品種の紹介について</li> <li>・ゆら早生の栽培方法</li> <li>・鳥獣害対策の現状と対策</li> <li>・獣害対策について</li> </ul>	<p>由良町</p> <p>場 内</p> <p>有田市</p> <p>海南市</p> <p>紀の川市</p> <p>由良町</p> <p>橋本市</p> <p>和歌山市</p>	<p>由良町、日高町カンキツ生産者</p> <p>済州道NH組合長日本先進ミカン研修 早和果樹園</p> <p>マルカイみかん部会の講演会</p> <p>JA紀の里中晩柑部会</p> <p>JAグリーン日高果樹部会生産者大会</p> <p>伊都地方鳥獣被害防止対策連絡協議会</p> <p>和海地方防除対策推進協議会</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柑橘類に関する研究について</li> <li>・田口早生の栽培技術について</li> <li>・隔年結果対策、和歌山県における中晩柑の現状</li> <li>・鳥獣害研修</li> </ul>	<p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p>	<p>岐阜県南濃町南部農事婦人クラブ</p> <p>長崎西彼農協中部柑橘部会</p> <p>島しょ部農業技術者連絡協議会</p> <p>JAながみね 下津町柑橘部会 オレンジ会</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岸和田市果樹振興会視察</li> <li>・温州みかんの生育状況および高品質果実の生産対策について</li> <li>・柑橘類の当面の技術対応について</li> <li>・研究施設の移転等に伴う事例調査について</li> <li>・柑橘栽培技術に係る試験研究の取り組みについて</li> <li>・味にこだわるみかんづくり</li> <li>・ゆら早生、田口早生の栽培について</li> <li>・高品質柑橘の生産について</li> <li>・ゆら早生・田口早生の特性と栽培管理について</li> <li>・カンキツ類優良品種について</li> <li>・新品種、ゆら早生の特性について</li> <li>・今後有望と思われる温州みかんについて</li> <li>・ゆら早生・田口早生の栽培方法について</li> <li>・病虫害防除、「YN26」について</li> <li>・新しい中晩柑橘類の紹介</li> </ul>	<p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>海南市</p> <p>場 内</p> <p>太地町</p>	<p>大阪府岸和田市果樹振興会</p> <p>佐賀県太良町うまいみかんづくり推進協議会</p> <p>JAありだ営農指導員</p> <p>静岡県農林技術研究所果樹研究センター</p> <p>愛媛県西予市三瓶町朝立浜集落協定</p> <p>地域団体商標「しもつみかん」登録者集会</p> <p>静岡県大井川農協柑橘部会</p> <p>愛媛県JA越智今治菊間支店松尾営農研究会</p> <p>静岡県三ヶ日町認定農業者協議会</p> <p>ハウスデコボン研究会</p> <p>川辺町元気野菜クラブ、4Hクラブ</p> <p>愛媛県川上青壮年同志会</p> <p>静岡県とぴあ浜松浜北地区柑橘生産者</p> <p>JAありだAQ総合選果場柑橘部会</p> <p>東牟婁地方果樹研究会総会</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「YN26」等新品種育成試験について</li> <li>・ゆら早生の新系統と栽培技術について</li> <li>・ゆら早生・田口早生の栽培管理について</li> <li>・「YN26」について</li> <li>・我が国における果樹栽培の研究内容とその成果</li> <li>・獣害対策の基本</li> <li>・鳥獣害対策について</li> </ul>	<p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>上富田町</p> <p>場 内</p>	<p>日高果樹技術者協議会</p> <p>糸我愛好会</p> <p>JA紀の里那賀支所女性営農講座</p> <p>JA紀州中央こだわり部会</p> <p>(社) 食品受給研究センター「農業政策立案のための農業統計企画・設計」コース</p> <p>社団法人わかやま森林と緑の公社わかやま労働力確保支援センター</p> <p>緑の雇用担い手対策事業</p> <p>海南市下津町松尾中山間役員</p> <p>JAながみね</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミカンとふれあいデー</li> <li>・ウイルスフリー苗木生育比較調査結果、カンキツ類育成品種紹介</li> <li>・新品種について</li> <li>・ゆら早生新品種について</li> <li>・柑橘類の品種育成について</li> <li>・神戸大学農業機械利用学「ミカンの品質管理と産地戦略」</li> <li>・常緑果樹の主要病害虫の発生と防除対策について</li> <li>・先進事例調査研修（鳥獣害）</li> <li>・和歌山議会農林水産委員会県内調査</li> <li>・サル、イノシシ等の生態と被害防止技術（まかく堂研修）</li> </ul>	<p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>白浜町</p> <p>神戸市</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場内他</p>	<p>一般県民、カンキツ生産者</p> <p>果樹苗木組合・果樹ウイルスフリー育成会総会</p> <p>JAありだAQ マルン選果場柑橘部会</p> <p>JAみなべいなみ柑橘部会</p> <p>東日本ブロック柑橘技術員</p> <p>神戸大学農学部</p> <p>(社) 和歌山県植物防疫協会会員</p> <p>徳島県名西郡神山町果樹研究会、徳島県職員、神山町職員、JA職員</p> <p>和歌山議会農林水産委員会</p> <p>和歌山県職員、市町村職員、JA職員</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミカンとふれあいデー</li> <li>・「みかん学入門－有田ミカンに学ぶ」</li> <li>・ブランド品生産技術の推進と課題</li> <li>・果樹試験場現地研修</li> <li>・和歌山県の柑橘品種</li> <li>・YN26の品種特性、優良中晩柑について</li> <li>・JAみなべいなみ埴田出荷会視察研修会（鳥獣害）</li> </ul>	<p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>有田郡市</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p> <p>場 内</p>	<p>一般県民、カンキツ生産者</p> <p>放送大学面接授業</p> <p>徳島県勝浦いきいきファーマーズ</p> <p>果実基金協会東日本ブロック会議</p> <p>中日本果実和歌山会</p> <p>JA紀南みかん部会</p> <p>JAみなべいなみ埴田出荷会</p>

果樹試験場

	・果樹試験場施設見学	場 内	韓国济州市老人会・国際交流課
12	・ミカンとふれあいデー ・果実選別技術の現状と課題	場 内 場内、有田川町	一般県民、カンキツ生産者 京都大学農学部国際交流室
1	・ミカンとふれあいデー ・ウンシュウミカンにおける環境保全型農業に関する取り組み ・果樹試験場創立100周年記念フォーラム 気象変動の実態と生育品質への影響 高品質栽培のための水管理 有望系統の現地探索と育種 環境変化と病虫害防除 カンキツ研究、次の100年を考える ・品種育成の取り組みについて ・昨年の気象経過とミカンの生育概要およびミカン園の消費水量予測について ・温州みかんの剪定について ・地域農業を考える日高のつどい「獣害対策について」 ・鳥獣害対策住民勉強会 ・気象に関する話題提供	場 内 日高川町  場 内  場 内 有田市  場 内  みなべ町  海南市 和歌山市	一般県民、カンキツ生産者 一般県民、カンキツ生産者  一般県民、カンキツ生産者  大分県農林水産研究指導センター 有田川土地改良区散水委員会  有田農業技術者会会員、日高果樹技術者協議会 日高地方農業士会員、日高地方生活研究グループ連絡協議会、日高地方4Hクラブ連絡協議会 海南市下津町大崎地区住民 地球環境問題に関する共同勉強会
2	・ミカンとふれあいデー ・有望な柑橘中晩柑類の特性について ・果樹剪定講習会 ・マルドリ栽培方法及び酸高対策について ・気象変動に対応したミカン作り ・ユズ剪定講習会 ・剪定・栽培管理等研修 ・鳥獣保護員研修会 ・橋本市鳥獣被害大集会	場 内 場 内  場 内 場 内  田辺市 古座川町 場 内 場 内 橋本市	一般県民、カンキツ生産者 大阪府貝塚市果樹振興会  和歌山県学校農業クラブ連盟 静岡県JA大井川柑橘部会葉梨支部  JA紀南カンキツ生産者 古座川町内ユズ生産農家 北山村パイロット園管理技術者 和歌山県鳥獣保護員連絡会会員 和歌山県議会議員、伊都振興局、橋本市議会議員、橋本市役所、自治会、猟友会、JA、森林組合、農家、一般県民
3	・ミカンとふれあいデー	場 内	一般県民、カンキツ生産者

・現地での非破壊糖度酸度測定装置（携帯型）の活用について	有田川町	JAありだ営農指導員
・異常気象に対応したミカン栽培について	海南省	NOSAI部長研修会、生産者
・JAグリーン日高かんきつ技術研修会	由良町	JAグリーン日高果樹部会会員
・JAありだ宮原共選視察研修会	場 内	JAありだ宮原共選カンキツ生産者
・中晩柑類の新品種の研修会	場 内	AQ選果場柑橘部会生産部長
・ブランドありだ果樹産地協議会鳥獣による農作物被害対策研修会	場 内	有田振興局、市町村、JA、和歌山中部農業共済組合
・龍神村区長連合会視察（鳥獣害）	場 内	龍神村各区区長
・由良町農業士会視察研修会（鳥獣害）	場 内	由良町農業士会
・有田市認定農業者研修会（鳥獣害）	場 内	有田市認定農業者
・西牟婁普及指導協力委員現地研修	場 内	西牟婁普及指導協力委員

#### 4) 平成22年度研究成果の発表・公表

##### (1) 一般雑誌

題 名	発 表 者	発 表 誌
・ゆら早生栽培のポイント～4月、5月の管理～	中谷 章	和歌山の果樹 61(4) : 2-3
・目で見て納得！病虫害ガイド～カンキツ～	間佐古将則 井沼 崇	和歌山の果樹 61(6) : 4-5
・ゆら早生栽培のポイント～6月の管理～	中谷 章	和歌山の果樹 61(6) : 2-3
・ゆら早生栽培のポイント～7月の管理～	中谷 章	和歌山の果樹 61(7) : 2-3
・ゆら早生栽培のポイント～8月の管理～	中谷 章	和歌山の果樹 61(8) : 4-5
・‘ゆら早生’高品質果実生産のための水分管理	宮本久美	和歌山の果樹 61(8) : 12-16
・目で見て納得！病虫害ガイド～カンキツ～	間佐古将則 井沼 崇	和歌山の果樹 61(11) : 6-7
・話題の柑橘品種「ゆら早生」	中谷 章	柑橘 62(9) : 18-20
・果樹試験場の100年を迎えて	山田知史	和歌山の果樹 62(1) : 17-19
・品種紹介②～カンキツ～ 津之輝・麗紅	中地克之	和歌山の果樹 62(2) : 6
・透水性除草シートを用いたカンキツ有機栽培技術	貴志 学	和歌山の果樹 62(2) : 15-17
・平成23年産温州みかんの生育状況・対応について	中地克之	和歌山の果樹 62(3) : 9-11
・品種紹介③～カンキツ～ 春峰・はるか	中地克之	和歌山の果樹 62(3) : 19
・和歌山県におけるホルトノキ萎黄病の被害実態	法眼利幸他	森林防疫 59(3) : 14-20

## (2) 著書

なし

## (3) 学会発表・学会誌等への投稿

題名	発表者	発表誌
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンキツ新品種‘YN26’</li> </ul>	中地克之 森口幸宣 藤本欣司 小澤良和	園芸学会平成22年度秋季大会、園学研9別2：90
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農薬の使用回数を削減したウンシュウミカンの栽培体系における銅水和剤による黒点病の防除</li> </ul>	井沼 崇 間佐古将則 増田吉彦	関西病虫研報52：61-63
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャノキイロアザミウマを誘引する光の波長探索とその効果</li> </ul>	間佐古将則	第55回日本応用動物昆虫学会大会 講演要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウンシュウミカン園における消費水量の推定</li> </ul>	山本浩之 中谷 章 宮本久美 宮崎真人 中桐貴生 堀野治彦	園芸学会平成23年春季大会、園学研10別1：49
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチおよびかん水方法がウンシュウミカン園の消費水量に及ぼす影響</li> </ul>	山本浩之 中谷 章 宮本久美 中桐貴生 宮崎真人 堀野治彦	園芸学会平成23年春季大会、園学研10別1：48
<ul style="list-style-type: none"> <li>・The present state and challenges of fruit sorting technology in Japan</li> </ul>	Kumi Miyamoto	International Symposium on Advanced and Innovative Sensing Technology for Agro-Food Quality Measurement. Korean National Academy of Agricultural Science, Seoul.

## (4) 農林水産省研究会等資料

題名	発表者	発表誌
<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山県におけるカンキツ病害の発生動向と対策</li> </ul>	井沼 崇	平成22年度常緑果樹研究会病害分科会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹におけるLEDによるアザミウマ類防除技術の開発</li> </ul>	間佐古将則	平成22年度常緑果樹研究会虫害分科会

・ウンシュウミカンの個選による収益性の向上	宮本久美	平成22年度常緑果樹研究会栽培分科会
・SSRマーカーを利用したカンキツ交雑胚の早期判別	田嶋 皓	平成22年度常緑果樹研究会バイオテク分科会

(5) 新聞・雑誌掲載

記事見出し (内容)	掲載年月日	掲載誌名
・和歌山県 カンキツ類主要病害虫発生と防除対策	H22. 5. 5	新農林技術新聞
・光と音でイノシシ撃退 慣れ防止へパターン作戦 和歌山県などが装置開発へ	H22. 4. 17	日本農業新聞
・イノシシ撃退装置開発へ	H22. 5. 1	和歌山特報
・獣害対策に「餌場」監視 腐ったミカンイノシシ〇猿× 昨年県果試チーム 7ヶ月かけ	H22. 5. 16	読売新聞
・鳥獣害防止へ実演 県と中央会 アドバイザー養成研修	H22. 6. 12	日本農業新聞
・野生動物呼ぶ廃棄果実 7ヶ月で1300匹超確認	H22. 8. 17	紀伊民報
・イノシシ忌避資材効果持続せず 和歌山県が6種調査 すぐに「慣れ」	H22. 9. 22	日本農業新聞
・果実残さ動物“日参” 収穫後は処理徹底 和歌山県でかんきつ園調査	H22. 9. 24	日本農業新聞
・極早生ミカン品種「YN26」	H22. 10. 15	日本農業新聞
・イノシシやサル被害は“果実の残さ”を食べに集まる	H22. 10. 21	和歌山特報
・温州ミカン新かん水指標作成へ	H22. 11. 13	日本農業新聞
・気象の変化に対応 温州ミカンの灌水指標年度内に作成	H22. 11. 25	毎日新聞
・自分たちで取り組み意識を 法眼さんが鳥獣害対策で訴え	H23. 1. 15	紀州新聞
・イノシシに餌残すな 法眼氏が獣害対策で講演	H23. 1. 15	日高新報
・ストップ! 鳥獣被害 あす橋本で対策集会初開催	H23. 2. 5	読売新聞
・温州ミカン黒点病防除 銅水和剤が有効 和歌山県果樹試 減農薬に弾み	H23. 2. 9	日本農業新聞